旧庁舎解体工事　住民説明会　概要

日　　時：令和４年７月９日（土）　９：３０～１０：２０
場　　所：駒澤大学高等学校

国立医薬品食品衛生研究所旧庁舎解体工事について、資料を基に説明を行い、その後質問等意見交換を行った。

【意見交換内容】
質問：住居建物調査は行われているのか。
回答：事前調査を行い工事後に事後調査を行うことにしています。

質問：建物調査の範囲はどうなっているのか。
回答：敷地から３０m範囲を対象としています。

質問：ＪＲＡの工事と国衛研の工事の振動について分別はできるのか。
回答：どちらの振動か分別は難しいが、振動が起きた時点でどういった工事をどの時間行っていたかなど状況によって判断いただくのが一般的ではないかと考えています。

質問：財務局に引き渡される期限はいつか。
回答：工事を速やかに安全に終わらせて引き継ぐことが第一の目的ですが、工事が年度末までかかる見込みのため工事終了後に財務局のチェックや引渡のための事務手続きもあるので期限という形では示されていません。
　財務局の方ではおそらく、今年度中の引き渡しは無いと考えていると思われており、我々としては来年度中に引き渡しができるのではないかと考えています。

質問：売却手続きについては財務局に引き渡し後になるのか。
回答：国衛研では財務局に引き渡すところまでで、売却手続きについては財務局で行うことになります。

質問：令和４年度工事が完成すれば並行して入札要綱など財務局とすり合わせて作成すると思われるが案などはできているのか。

回答：国衛研としては引き渡すところまでであり、入札要綱などの作成等は一切関与できないことになります。

質問：解体工事についての議事録などの公開などはどうなっているか。
回答：解体工事の説明会などの議事要旨はＨＰで公開することとなっています。

質問：事後調査について具体的にいつ行うのか。
回答：工事終了後に行うため現在の予定では来年の３月くらいに調査のご案内をさせていただき４月から日程調整を行いその後調査に入りたいと考えています。
要望：資料への記載をお願いしたい。

質問：基礎杭の径などボーリング調査を行えば予見できたのではないか。
回答：8 号館については、実際に試掘をしたが地下水が出てしまったため、実際の杭の確認ができませんでした。レーダー探査と電磁誘導探査を行い杭の深さの確認をしましたが、杭の太さまでは解らなかったため、他の建物と同等の杭が入っているだろうとの想定のもと進めていました。

質問：ガラなどについて調べるため地歴調査を行ったか。
回答：戦後くらいまで遡り行っていますが、解体のガラを下に埋めているかなどまでは解らず、ある程度まではあるだろうと考えていましたが、ほぼ残っているとは考えていませんでした。

質問：２年の間揺れが凄いため、仕事ができないぐらい揺れていた。このところ落ち着いていたので良かったのだがまた揺れるのではないかと思うと精神的にダメージを受けるが各自宅に振動計をつけるなど振動の検査をしているのか。
回答：現在は、一旦工事が落ち着いている状況ですが、残っている工事がありどうしてもやらなければなりません。西側エリア中心に振動の件についてお話等は聞いている中で騒音と振動計を５か所設置して一定内に収まっているかチェックをしています。地質的に振動が伝わりやすいことが分かっており皆様には迷惑をおかけしているところです。

質問：いつまで続くのか。
回答：今年度いっぱいは、かかる見込みです。

質問：８号館の杭がすごく太いがどのくらい揺れるか不安。
回答：杭の引き抜き作業自体には、さほど揺れとか騒音は出ないと考えておりますが、杭を小割にしたりする事で重機を使うので大型の重機が動くと振動など出てしまうのではないかと思われます。これを少しでも抑えるため真摯に検討しています。

質問：当初の説明会において上用賀まちづくり協議会の考えなどを財務省に伝えますと言っていたがどうなっているのか。
回答：関東財務局東京財務事務所との協議の中で、住民の皆様からお聞きしている跡地利用の要望なども伝えています。

質問：敷地内の汚染物質の除去や地下水の汚染についての処理についてどうなっているのか。
回答：汚染土の状況や地下水については健全土への入れ替えなど行い東京都の指示に従い手続きを進めています。指定されたものついては指定解除の告示が来週頃になされる予定です。